

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195000039		
法人名	株式会社 ハンループ		
事業所名	グループホーム はるる		
所在地	常呂郡訓子府町字穂波67-33		
自己評価作成日	令和5年10月20日	評価結果市町村受理日	令和5年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍が落ち着き、ご家族、ご友人の面会も徐々に増えてきています。外出面ではまだまだ普段どうりとはいきませんが、毎月、職員間で行事を計画し楽しんでいただけるように努めています。又、ご利用者様の体調に合わせ、訪問診療等活用しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	u.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0195000039-00&Serv
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和5年11月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は交通の便利な住宅地にあり平成18年9月に開設し2ユニットの平屋立てで、デイサービスセンター平屋が併設されています。基本理念「個人として尊重し、尊厳を維持しよう」「笑いと楽しみのある自立した生活をしよう」「自然とふれあいをたいせつにしよう」「地域との交流をふかめよう」の基、日常的に利用者の体調変化に気を付けながら、その日その時にできる能力で安全に穏やかに楽しいひと時を提供できるように管理者及び職員は努めています。献立は利用者の健康や状況に併せて提供しており、嗜好の把握は会話等からまた、口の開閉具合など細かな仕草で好みを取り食欲を満たす努力をしています。また、誕生には好みを聞き取り提供したり行事にはスイカ割や手作りおやつ、行事食、日々の献立等利用者の楽しみとなるように取り組んでいます。また、利用者の状況や状態から介助方法を図で掲示し見える化し、その人に合わせた介護の仕方に努め、利用者へ寄り添った細かなケアを行い利用者本位を心掛けている事業所となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内に掲示する事で職員への共有を図っている。	職員には理念の振り返りが出来るようにフロア一の目につく場所に掲示しておりパンフレットにも掲載しています。利用者には日々笑顔でゆったりと過ごして頂くように職員は利用者の体調に配慮し疎外感を持たさないように声掛けを行っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	制限もあり地域との交流や慰問などの受け入れを行っていない。	5類移行後も町役場の指導を受けながら流行期間は接触を制限しています。外部研修や認知症カフェに参加をしながら他事業所の交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政主催の認知症カフェに参加し、相談や情報提供を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年2月より2カ月に一度開催し報告や意見交換を行いサービス向上に努めている。	年6回の運営推進会議は偶数月で町役場担当、包括センター職員、町内会長、主婦の会、家族の参加を得て利用者状況・活動報告・ヒヤリハット・事故報告等を受け活発な意見を頂き適切な運営に反映しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政主催の会議や研修に参加する事により連絡を取り合い協力関係を築いている。	運営推進会議の出席を頂きながら利用者状況や事業所運営について報告し理解を得ています。情報交換や外部研修参加を行い、また、わからない点は直接役場に訪問し相談・アドバイスを受け良好な関係構築に務めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	オンライン研修や会議で身体拘束への理解を促し、身体拘束を行わないケアを実施している。夜間帯は職員が各ユニット1名の為玄関の施錠を行っている。	年4回身体拘束廃止・虐待防止委員会は管理者、リーダーを主に参加できる職員で実施しています。また、研修は年2回内部研修と町役場情報で外部研修の参加し研修後伝達研に取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	オンライン研修への参加や会議の際不適切なケアになっていないか検討し虐待への意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政の研修会に参加し、現時点では制度利用はないが、必要に応じて行政と協力のもと支援を行える体制をとっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要に応じて、ご家族様との会話の場を設け説明を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、日ごろのご家族様の要望においては職員間で共有を図っている	受診の際の報告や面会時には家族に声をかけ意見・要望を聞き取り情報を全職員に共有努めています。月1回の写真をメインに通信便りなどで利用者の状況を知らせています。現在の面会は事前予約で居室で3名で15分程度の制限で行っており、利用者・家族の笑顔と共に安心に繋がっています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の会話においても注視し、スタッフへの気づきを大切にしている	月1回のユニット会議の中で利用者がより良いケアを受けられるように利用者の病状に添った研修が行われ、職員からの提案で個別に必要なケアを図で分かりやすく解説したものを居室に貼り利用者の負担にならないように取り組んでいます。月1回、法人内の他事業所の管理者が集い事業所の実情を互いに伝え意見交換を行い運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休や有給を取りやすい環境を整えており資格についても取得しやすい環境である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修やオンライン研修へ気兼ねなく行ける環境を整えている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ系列のグループホームがあり月に一回情報交換を行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問では話しやすい雰囲気づくりを心掛け本人の要望や不安の傾聴を行い、聞き取り内容を職員間で共有し安心できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込時や入居手続き時に家族が困っている事、不安な事を必ず伺い、要望についても実現に向けて相談と検討を重ね家族との関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から得た情報を基にアセスメントを行い適切な支援に繋げるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴や会話等から自信を持って行える役割・作業を見出し、一緒に行動や作業をする事で双方が支えあえるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に近況を伝え、相談した上で家族にしか出来ない事はなるべく行って貰うようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話に家族の事を盛り込んだり、親戚・知人の面会も丁寧に対応し関係が持続するように努めている。	面会制限はありますが居室にて多くの知人が訪ねて来ています。墓参りや外泊など希望する利用者・家族については支援しており、中には外食等楽しむ利用者もいます。2ヶ月に1回の訪問美容や利用者が好む童話や歌詞の本などを取りやすい場所に置き自由に読まれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や個性を把握し、その時の状況や気分を考慮して気の合う同士の配置や組み合わせを行い、日々穏やかに過ごせるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も変わらずに相談や支援を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動等から希望・意向を把握し、困難な場合は家族等から聞き取りを行い本人の希望・意向に沿えるよう努めている。	利用前の生活習慣が維持出来るように利用者その日その時に見守り支援に努めています。主に洗濯のたたみや茶碗洗いなどのお願ひしています。入居前の聞き取りや毎日の会話、表情等で利用者の意向を把握しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に必ず生活に関する情報を本人・家族等から聞き取りしフェイスシートや連絡ノートを用いて職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ずつ1日分の介護記録を細かく記入するようにし状況把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング・アセスメントは定期的に行い、ユニット会議内でも意見やアイデアを話し合い、本人・家族の希望も取り入れてケアプランを作成している。	利用者のアセスメントは担当職員で行い利用者・家族の意向に添い全体会議で検討され介護計画が作成されています。記録は介護記録の書き方を内部研修し改善を図っています。基本6ヶ月に1回見直しを行い、他は変更に伴いその都度見直しを行っています。	利用者の日々の体調把握や状態の変化が生活改善や見直しに繋がる記録になるよう更に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日細かく介護記録を個別で記入するようしており、特記事項にあたる事は申し送りや連絡ノートに記して情報を共有しつつ実践や見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況・要望に対してなるべく受け入れられるように、他施設の取り組みや情報を集め応じられる様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの制限が明けてからは、近所や町内の公園の花見に小規模で外出したり、施設敷地内の空の下でおやつを食べたりと少しでも楽しむようにした。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を必ず聞き、適切な医療受診・往診をなるべく受けられるよう支援している。	町内の希望する係りつけ医の受診は事業所で行っています。町外はその時々で事業所や家族対応で往診可能な医療機関での対応は主治医の判断で週1回や月1回行われています。皮膚科は必要に応じて往診があります。隣接しているディサービスの看護師に相談ができ利用者の健康管理が行われています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良があれば平日のみ必ず看護職員に伝え相談している。又、結果に応じ適切な受診・看護に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は必ず情報提供書を提出し、退院に向けては病院関係者や家族と密に連絡を取り情報共有に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状況に合わせて早期に話し合いの場を設け、施設としての可不可等説明しながら場合によっては地域医療と連携している。	契約時に家族の希望により重度化や終末期に向けた指針を説明しています。町内で医療機関の体制が整っていませんが、家族の意向により1名主治医の協力の基(現在訪問看護師無)実施しています。また、家族の要望に添い事業所のできる範囲で支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ユニット会議で勉強会の時間を設け、年に2・3回救護方法や連絡手順を復習している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や災害研修で学んだ事を勉強会で他職員に情報伝達している。	年2回、消防署による火災初期対応実務研修会が行われ事業所での伝達研修を実施しています。災害に対する職員作りと利用者の安全を考慮しディサービスセンターと合同での火災避難訓練を検討しています。	現在住民参加が難しい状況にありますが、利用者の命と安全が守られるように町内会と協議し見守りの役割・理解を得るため地域住民に周知し協力体制を構築することを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格等も把握した上で気持ちを尊重し、ひとりひとりに合った言葉かけや対応を行っている。	利用者とコミュニケーションが取りやすい名前を本人や家族の了承のもと呼んでいます。パットなどは利用者に見えないように気を配り、声掛けや接し方の勉強会を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴する事を心掛け、言葉で伝えられない方は行動や表情から思いを汲み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向に沿った生活リズムで1日を過せるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度訪問で散髪を実施しており、本人の好む服装を取り入れつつ、季節にあった物を着用できるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを取り入れた献立を基本とし、一緒に食事をする事で好みや個々の力の把握に努め楽しく食事できるよう支援している。又、可能な範囲で片付けをしてもらっている。	職員は献立は利用者のその日の体調や病状・変化に対応した形態で食事を提供しています。また、誕生会は本人の食べたい物や手作りケーキでお祝いしたり、たこ焼きパーティーやパンバイキングなどを行い利用者の喜びとなるように工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下力や認識力に応じた食事と水分を本人の好みに合わせて適正量摂れるように提供・支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と就寝前は必ず口内保清に付き添い、口内の不具合の有無を確認し、個人の必要に応じた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を記録を用いて把握し、行動や表情からも汲み取り適度に適切にトイレ誘導をしている。	昼夜トイレでの排泄を基本とし、自立されてる方の見守りや排泄チェック表等で把握し声掛け誘導しています。トイレに間に合わなかった場合は周りに気付かれなように言葉を掛けさり気なくケアするように心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を記録し、本人に合わせて食事・水分の工夫をしている。また、必要に応じ医療機関への相談も行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後からの入浴に限ってはいるが、本人の気分や状態に合わせて声掛けを行い気持ちよく入浴出来るよう努めている。	週2回を基本としていますが、ディサービスのお風呂を利用したり、入浴剤を使用しゆっくり職員との会話を楽しんでいます。その日の気分で入浴を嫌がる方には日時を替えたりして利用者の気持ちに寄り添い無理尻しないように心掛けています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠そうな時は臥床を勧め休んでもらっている。日光や室温・音にも気を配り気持ちよく眠れるように努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに処方箋を綴じいつでも確認できるようにしており、薬の変更時は必ず職員間の連絡ノートに記載し情報の共有をしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月必ずイベントを開催するようにし、利用者の好むものを楽しめるように提供している。日常では本人の特性・特技・能力を見極め軽作業をお願いし行ってもらっている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば付き添いし外に出られるよう支援している。遠方場合は家族と相談し、可能な限り支援に応じる。	天気の良い日には事業所の駐車場での日光浴や桜見学のドライブ、花壇の花を摘み食卓に飾っています。利用者の中には受診後に家族と外食に行ったりと気分転換を図っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族の了承を得て施設側で行っている。また、症状や要望に応じて家族の了承を得た上で一部本人所持の対応にもしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を掛けられるように支援している。手紙が来た際は本人がやり取りを続けられるよう返事が必要か必ず確認している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人に分かりやすいよう座る席には名前を記し本人が落ち着く場所に配置している。目に触れやすい空間に季節の掲示物を飾ったり、ナースコールや電話の音も気にならない音量に使用している。	共同空間は季節感が感じられるよいに職員と一緒に作品を作り展示しています。利用者には混乱が起きないように席を設けるなどの配慮をして、本を読んだりビデオを見たり歌を唄ったりと思い思いに過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアTV前の席の配置は車椅子の方も入れるように工夫し、気の向いた時に一人でも何か出来るスペースは必ず作るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は家族の協力を得て写真を飾ったり思い出の品を飾ったりその人に合わせて行っている。	居室には収納し易いクローゼットが設置され、使い慣れたタンスやソファ、テレビなどを持ち込み、家族や孫、行事の写真を飾り加湿器や扇風機が置かれ過ごしやすくその人らしい落ち着いた部屋作りとなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札を付け、困らないようトイレ戸や周辺にも案内表示を付けている。		